

スーパーマーケット景気動向調査

2023年12月調査結果（11月実績）
（2023年12月21日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

12月調査（11月実績）結果概況

景気判断DI 現状判断は5か月連続で50を上回る

11月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DIの現状判断は、前月から+0.7の51.0となり、5か月連続で判断の分かれ目である50を上回った。見通し判断は、前月から+0.7の47.8とほぼ前月水準となった。

経営動向調査では、売上高DI、収益DI共に前月に比べ小幅に下落した。生鮮品仕入原価DIと食品仕入原価DIは高水準で推移しているものの前月に比べ落ち着きを見せ、販売価格DIも低下した。来客数DIはわずかに下がったが、客単価DIは前月並みで推移している。

カテゴリ動向調査では、中旬からの気温低下により冬物商材の動きが良くなった一方で、一部のカテゴリにおいては購入数量の減少がみられた。相場高傾向の青果DI、値上げによる単価増の日配DIは高水準を維持したものの、水産DIや惣菜DIは前月比で低下がみられた。（最終ページに詳細掲載）

景況感調査は、基調に大きな変化はなく、全般的にほぼ前月水準で堅調な推移が続いている。売上高としては好調が継続し、景気判断DI現状判断は50を上回る水準を維持している。（長期傾向についてはP11参照）

値上げによる単価上昇と、客数・買上点数の伸び悩みというせめぎ合いが続くなかで、ようやく気温が低下し、季節商材が動き出した11月となった。円安による輸入価格上昇によるインフレ基調がピークを超えるなかで、単価増傾向に落ち着きが見られ始めてきた。さまざまなコスト上昇の中で単価下落の基調には転じないと推察されるが、好調な販売動向の維持に向け、買上点数の回復が急務となる。スーパーマーケットにとって年間最大の売上となる12月、日常の食事とハレの日の食卓、それぞれに対する適切な対応が求められる。

景況感調査

現状判断

景気判断DI
当月：51.0 (+0.7)
前月：50.3

消費者購買意欲DI
当月：48.2 (-0.3)
前月：48.5

周辺地域 競合状況DI
当月：45.7 (-1.4)
前月：47.1

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：49.5 (+0.2)
前月：49.3

見通し判断

景気判断DI
当月：47.8 (+0.7)
前月：47.1

消費者購買意欲DI
当月：45.6 (-1.5)
前月：47.1

周辺地域 競合状況DI
当月：44.2 (-1.3)
前月：45.5

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：48.5 (+0.9)
前月：47.6

経営動向調査 経営状況

売上高DI
当月：8.4 (-3.6)
前月：12.0

客単価DI
当月：14.8 (-0.6)
前月：15.4

来客数DI
当月：-6.6 (-2.9)
前月：-3.7

収益DI
当月：9.2 (-0.9)
前月：10.1

販売価格DI
当月：23.3 (-2.4)
前月：25.7

生鮮品仕入原価DI
当月：15.6 (-4.7)
前月：20.3

食品仕入原価DI
当月：20.5 (-3.3)
前月：23.8

カテゴリ動向

青果DI
当月：16.2 (+0.8)
前月：15.4

水産DI
当月：2.1 (-6.9)
前月：9.0

畜産DI
当月：-2.2 (+2.4)
前月：-4.6

惣菜DI
当月：9.0 (-7.7)
前月：16.7

日配DI
当月：14.6 (-3.0)
前月：17.6

一般食品DI
当月：7.2 (-1.7)
前月：8.9

非食品DI
当月：-5.0 (-3.1)
前月：-1.9

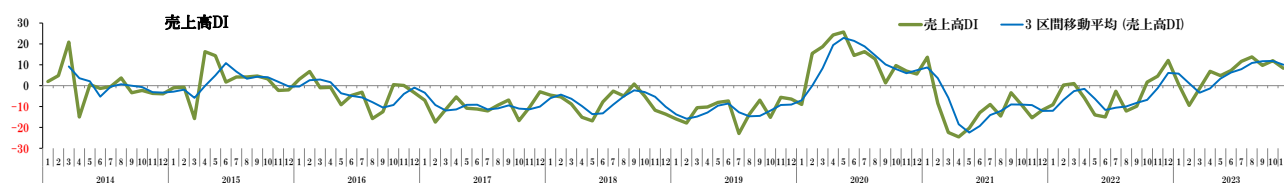
※DI値は前年同月との比較 / ()内は前月DIからの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高DI

当月やや下落も、プラス圏を維持

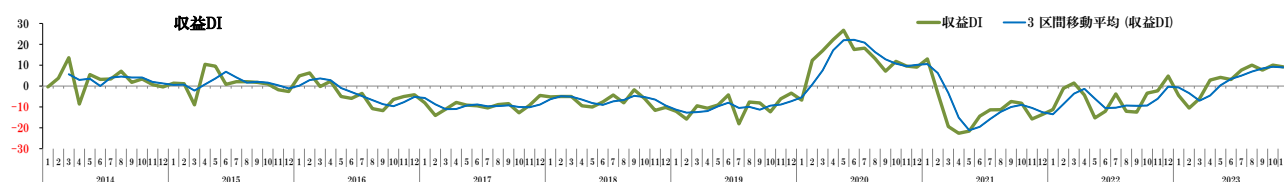
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	1.8	16.8	24.6	45.5	11.4	12.0
売上高 (当月)	4.7	17.4	26.8	41.6	9.4	8.4



2. 収益DI

当月小幅に下落も、プラス圏を維持

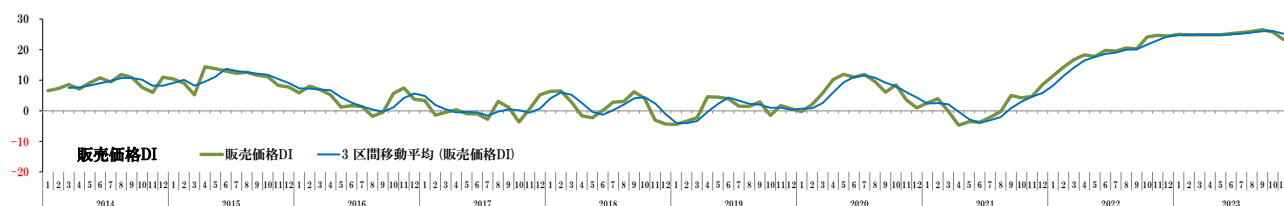
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	0.6	17.7	37.2	29.9	14.6	10.1
収益 (当月)	2.0	17.7	35.4	31.3	13.6	9.2



3. 販売価格DI

前月から小幅に下落も、引き続き高水準で推移

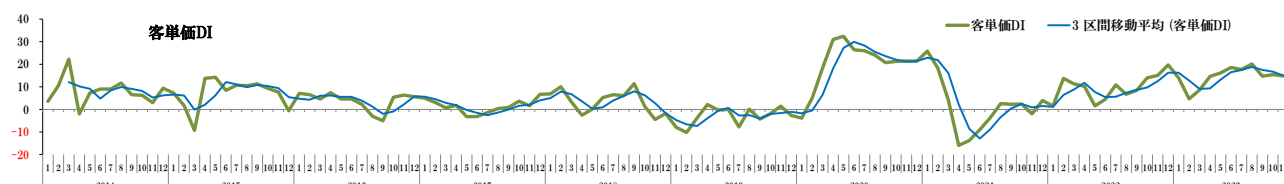
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.0	0.6	13.6	68.0	17.8	25.7
販売価格 (当月)	0.0	1.3	16.8	69.1	12.8	23.3



4. 客単価DI

前月からほぼ横ばいでの推移

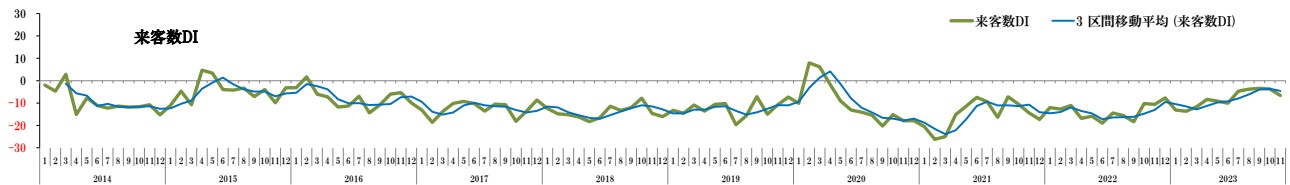
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	0.6	6.6	29.3	57.5	6.0	15.4
客単価 (当月)	0.7	6.1	30.6	58.5	4.1	14.8



5. 来客数 DI

前月からやや下落し、マイナス幅を拡大

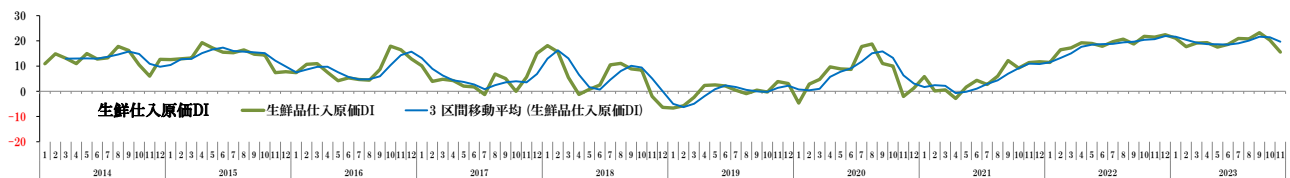
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	4.8	35.7	32.7	23.2	3.6	-3.7
来客数 (当月)	7.5	38.8	29.9	20.4	3.4	-6.6



6. 生鮮仕入原価 DI

前月から下落するも、二桁プラス水準で推移

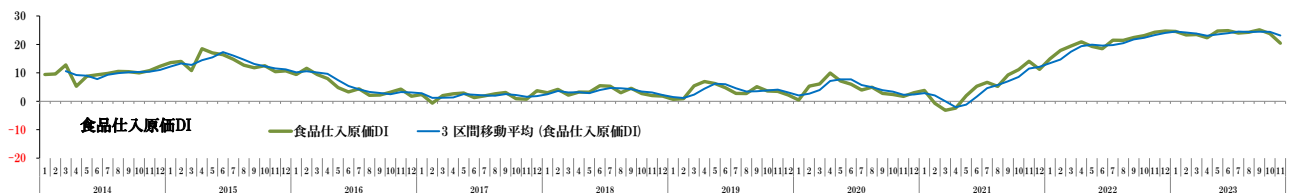
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	0.0	6.7	18.2	62.4	12.7	20.3
生鮮仕入原価 (当月)	2.1	4.2	31.5	53.8	8.4	15.6



7. 食品仕入原価 DI

前月から小幅に下落も、31か月連続プラス圏で推移

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	0.6	1.8	18.2	60.6	18.8	23.8
食品仕入原価 (当月)	0.7	4.2	20.3	62.2	12.6	20.5

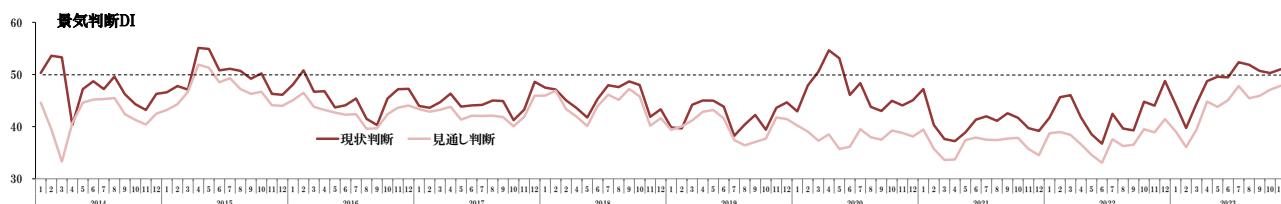


Ⅱ. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景況判断 2010年4月～)

1. 中核店舗景況判断 DI

現状判断は5か月連続で50台を維持

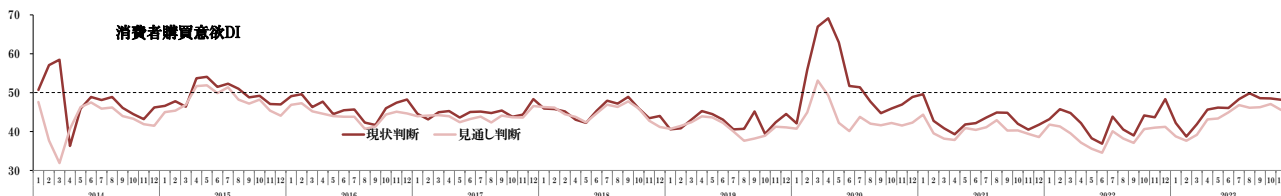
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景況判断 (前月)	0.0	15.2	68.4	16.4	0.0	50.3
【現状】景況判断 (当月)	0.7	12.5	69.7	16.4	0.7	51.0
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景況判断 (前月)	0.0	22.8	66.1	11.1	0.0	47.1
【見通し】景況判断 (当月)	2.0	18.5	65.6	13.9	0.0	47.8



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断は前月並み、見通し判断は小幅に悪化

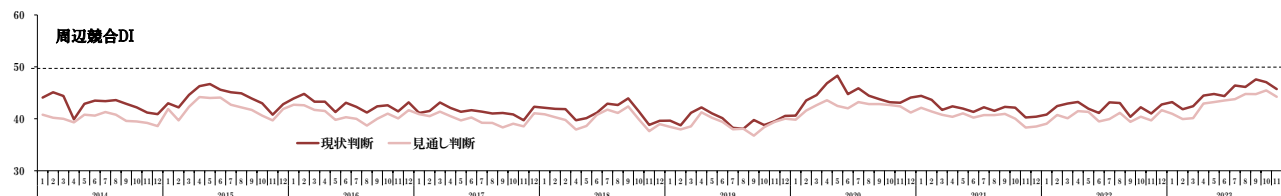
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	0.0	18.1	69.6	12.3	0.0	48.5
【現状】購買意欲 (当月)	1.3	17.8	67.8	13.2	0.0	48.2
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	0.0	20.5	70.8	8.8	0.0	47.1
【見通し】購買意欲 (当月)	0.7	26.3	63.2	9.9	0.0	45.6



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断、見通し判断共に前月水準で推移

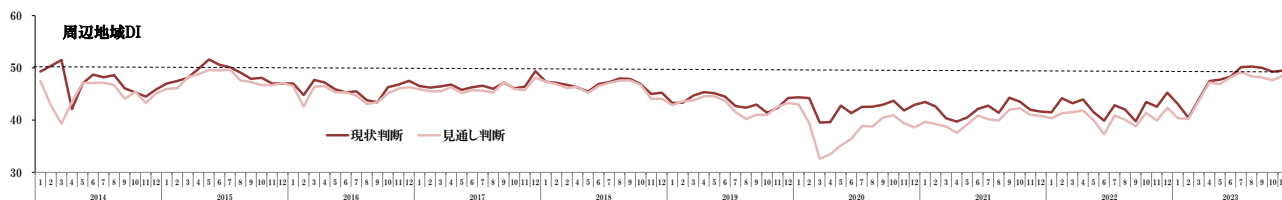
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	0.6	15.9	78.2	5.3	0.0	47.1
【現状】競合状況 (当月)	2.0	19.1	73.0	5.9	0.0	45.7
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	2.3	18.1	74.9	4.7	0.0	45.5
【見通し】競合状況 (当月)	3.9	19.7	71.7	4.6	0.0	44.2



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状判断、見通し判断共に前月水準で推移

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気(前月)	0.0	10.7	81.7	7.7	0.0	49.3
【現状】地域景気(当月)	0.7	8.6	82.9	7.9	0.0	49.5
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気(前月)	0.0	16.0	77.5	6.5	0.0	47.6
【見通し】地域景気(当月)	0.0	13.8	78.3	7.9	0.0	48.5

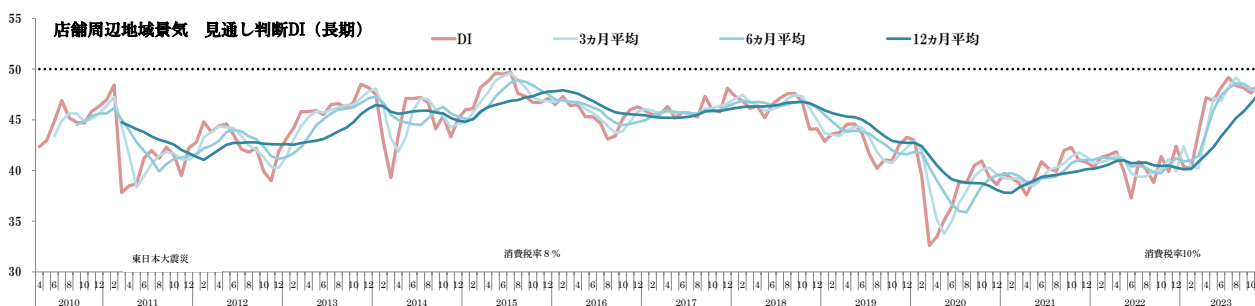
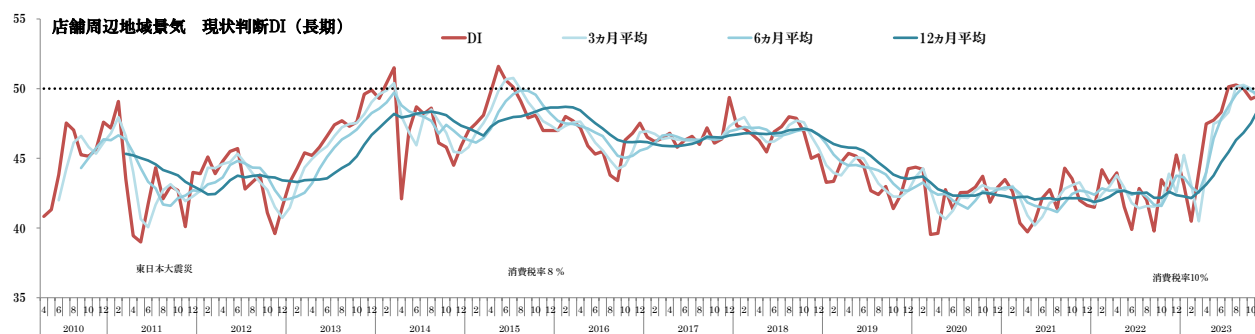


・中核店舗周辺地域景気判断DI 長期傾向(2010年4月～)

周辺地域景気判断DIは、2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けていたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。14年4月の消費税率8%への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には現状判断DIは51.6にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

しかしこれをピークに、その後15ヵ月間にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げており、19年7月には現状判断DIは42.3まで低下した。

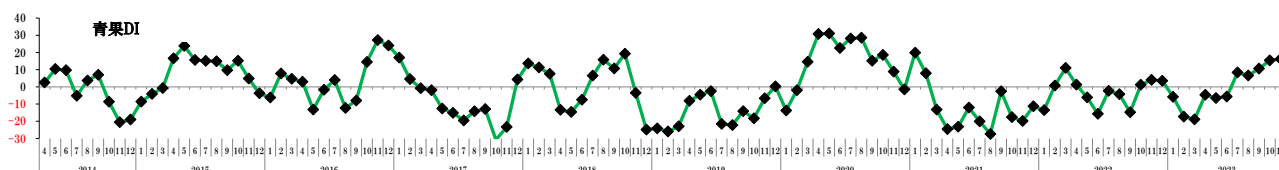
20年2月に大幅に悪化したのが、その後持ち直しの動きが続いた。21年以降は、感染状況により上下に振られる不安定な動きが続いた。22年4月以降悪化が続き、6月にはすべての移動平均線が下向きへと変化した。感染が再拡大した7月以降には一旦大幅な改善をみせた。その後23年3月以降は改善が続き、7月には判断の分かれ目である50を突破した。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：16.2（好調）

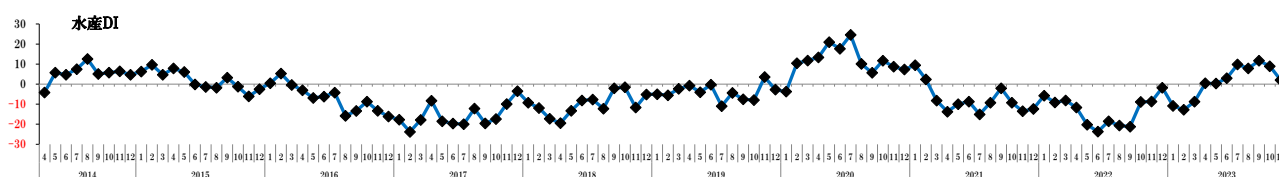
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	0.6	17.3	23.5	37.0	21.6	15.4
青果（当月）	2.1	11.7	24.8	42.1	19.3	16.2



相場高傾向が続いていたが、キャベツや白菜など大型野菜相場を中心に落ち着きをみせ、単価減となったものの販売数量が増加した。中旬からの気温低下で白菜やネギ、キノコなど鍋関連野菜の動きがよかった。サラダ関連、カット野菜、ナスやピーマンなど炒め物関連は引き続き好調。前年価格が高騰し土物類は苦戦となった。国産果実では柿や梨、りんごは相場が落ち着き好調。入荷が遅れている柑橘類、輸入果実は不振となった店舗が多い。

2. 水産DI：2.1（やや好調）

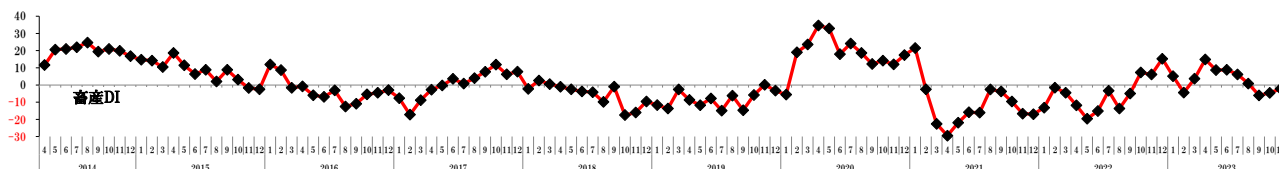
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	1.9	19.8	31.5	34.6	12.3	9.0
水産（当月）	5.5	24.1	35.2	26.9	8.3	2.1



気温の低下により、ブリや鮭など鍋関連商材の動きがよかった。一方でマグロなどの刺身類が不調とのコメントが多くなったが、冷凍エビや冷凍イカなど冷凍加工品は好調とする声が多い。塩干類は比較的好調に推移したが、魚卵は価格高騰の影響を受け不振となった店舗もみられた。貝類は不調とするコメントが多い。相場や入荷状況が読みにくく、販促に苦心しているというコメントもみられた。

3. 畜産DI：-2.2（やや不調）

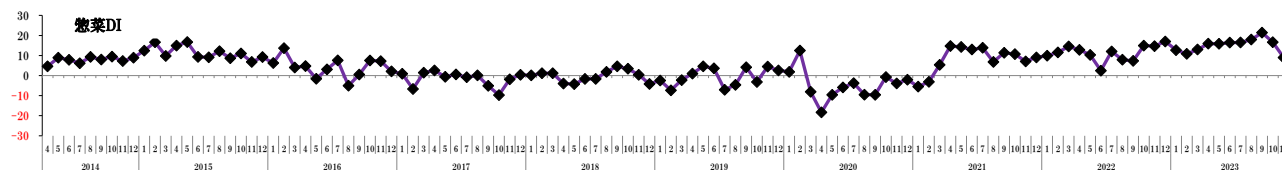
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	9.1	31.1	33.5	21.3	4.9	-4.6
畜産（当月）	7.5	30.8	29.5	27.4	4.8	-2.2



精肉全般で相場高傾向のなか、牛肉から豚肉や鶏肉へ需要がシフトする流れが続いている。中旬からの気温低下とともに、鍋関連の需要が高まった。牛肉は和牛、国産牛に加え輸入価格も高止まりしており苦戦が続く。比較的価格の安定している豚肉は小間切れや挽肉など普段使いの商品を中心に好調となった。相場が安定し、好調な推移の鶏肉については鳥インフルエンザ発生による影響を懸念するコメントが多くなった。ハムやソーセージなどの加工肉は引き続き動きが鈍い。

4. 惣菜DI：9.0（やや好調）

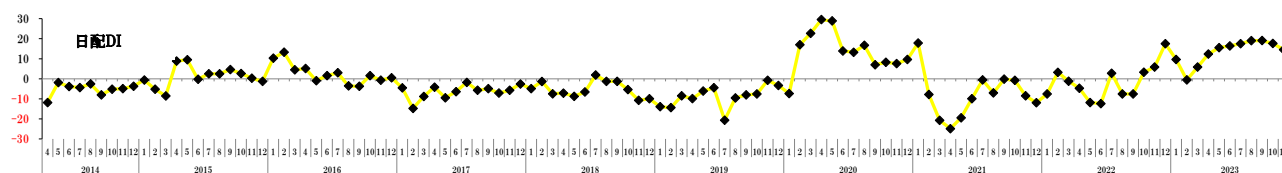
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	3.1	7.4	27.2	44.4	17.9	16.7
惣菜（当月）	4.9	17.4	25.7	41.0	11.1	9.0



家庭での電気・ガス代高騰や基礎調味料の高騰を追い風に、天ぷらや唐揚げ、コロッケなど揚物類、焼鳥などの焼物類を好調に推移した。通勤や外出の増加による昼食・夕食需要も引き続き好調、行楽需要を背景にしたおにぎりなどの米飯類、和惣菜の動きがよかった。気温の低下によりホットメニューへの需要が高まった一方で、寿司類は伸び悩んだ。イベント・行事などの特注、クリスマスや年末の予約注文なども順調とするコメントが多く見られた。部門としての好調が長く続いていることから、DIとしては落ち着きが見られている。

5. 日配DI：14.6（好調）

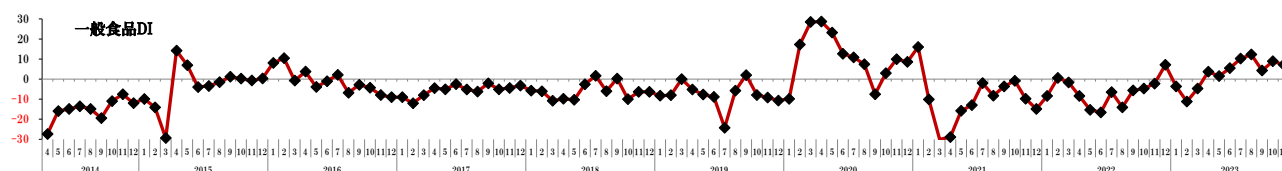
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	0.0	9.8	28.2	43.6	18.4	17.6
日配（当月）	2.1	11.0	29.5	41.8	15.8	14.6



引き続き値上げの影響が大きいカテゴリーであるが、全般的に買上点数の減少は小さく、一品単価上昇により、販売額は引き続き好調に推移している。価格再改定のあったパンが好調、牛乳など乳製品は好不調が分かれている。鶏卵は価格が落ち着きつつあったが鳥インフルエンザの影響が懸念される。冷凍食品、納豆や豆腐など、食生活に欠かせないベーシックな商品群には堅調に推移するも、一部には販売点数減もみられた。気温の低下とともに鍋関連の水物や練物、麺類の動きがよかった。

6. 一般食品：7.2（やや好調）

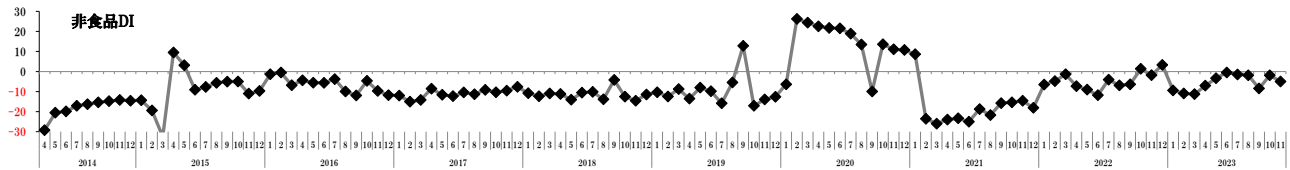
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	3.1	18.4	28.8	39.3	10.4	8.9
一般食品（当月）	2.7	23.3	26.7	37.0	10.3	7.2



全般的に販売価格上昇による買上点数の抑制傾向がみられるものの、気温の低下とともに鍋つゆやスープ、シチューなどのホットメニュー、コーヒーなどのホット飲料、乾麺、パスタなどが好調となった。米類は回復傾向がみられるが、単価下落で前年以下となった店舗も。調味料には点数減がみられ、苦戦した店舗が多い。行楽向けを中心に菓子類が好調。酒類ではビールが駆け込み需要の反動減で不調、ボジョレーヌーボーは円安による価格高騰で不振となった。

7. 非食品 DI：-5.0（やや不調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	9.3	25.5	36.0	21.7	7.5	-1.9
非食品（当月）	12.1	25.7	37.9	18.6	5.7	-5.0



レジャー関連のカセットボンベや紙皿、カイロなど冬物商材の動きが好調とのコメントが多い。インフルエンザ流行等により、マスクやハンドソープ、除菌関連など衛生用品の需要低下傾向が落ち着いた地域もみられた。単価が上昇したペットフード、トイレトペーパー・キッチンペーパーなど紙製品は好調に推移。家庭用品は全般的に動きが鈍い。タバコは前年値上げ前の駆け込み需要の反動がみられ不調となっている。

カテゴリ別 DI による好不調判断

かなり好調：～ 20 好調：20 ～ 10 やや好調：10 ～ 0
 やや不調：0 ～ -10 不調：-10 ～ -20 かなり不調：-20～

2023年12月調査（11月実績）キーワード TOP3

1. 単価上昇と来客数減、買い上げ点数減
2. 気温低下による冬物商材好調
3. 経営コスト上昇の影響

（参考）2022年12月調査（11月実績）キーワード TOP3

1. 価格高騰の影響（一品単価上昇）
2. 冬物商材の好調
3. 収益面への懸念

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

11月実績速報版 152社
 10月実績確報版 171社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp